



# IMJ 日本統合医療学会 会報 ニュース



編集・発行 一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長 川嶋みどり URL:<http://imj.or.jp/>  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2丁目4-13 錦和ビル3階  
一般社団法人日本統合医療学会事務局 E-mail:[imj@imj.or.jp](mailto:imj@imj.or.jp) TEL:03-6675-4993 FAX:03-5244-5808

## 巻頭言



## 集え！平成 医療維新の志士！！ 第19回日本統合医療学会ご参加のお願い

柴田 眼治

第19回日本統合医療学会大会長  
日本統合医療学会山口県支部支部長  
医療法人社団水生会柴田病院理事長

第19回日本統合医療学会（IMJ2015山口大会）が本年12月12日（土）、13日（日）と迫ってまいりました。今回は山口県支部が引き受けとなり、支部長の私に大会長のご指名をいただきました。当支部は認定設立されて11年が経ち、その間、全国学会への発表や支部活動を行ってきた点が、本大会の重責を担うことに繋がったのだらうかと思っています。

全国の支部も19か所設立されましたし、今後も増えつづけて、統合医療が全国的に浸透・拡大していくでしょう。さらに普及活動が盛んになっていくことを大変嬉しく思っております。

さて、本大会は、名誉大会長に理事長 仁田 新一先生、プログラム委員長には、九州大学総長になられた久保 千春先生にご依頼し、お引き受けいただきました。私自身は、臨床一筋でまいりましたので、力たらずで、諸先生方にお助けいただき、充実した大会実現に向け目下奮闘準備しているところです。

大会テーマは“Art&Science with Humanity”としました。統合医療を行なうには豊かな人間性を持った科学と芸術などの知性や感性が大切です。すなわち、左脳と右脳の融合を行なうと同時に全人的・包括的医療の実践が重要です。

また、患者さんも私たち治療者も“Body, Mind, Spirit”の存在です。この点をサブテーマとしましたのは、近年の心と身体だけでなく、さらに深いSpiritに代表される魂の存在についても目を向けていただければという想いが強いからです。

プログラムは大枠が決定し、アカデミックなご講演・ご討議に加え、地域医療や支部活動の「活動報告」「現状の問題提起」「今後の展開」などが行なわれる予定です。残るは、一般演題の構成となっております。

ります。活気ある学会であり続けるためには、「チャレンジ精神」、「一石を投じる発表」が重要で、大会に活力をもたらすことと思います。山口県は明治維新策源地の地であって、吉田松陰先生をはじめ青雲の志に燃えた若者たちが近代国家をつくるために活躍した土地柄です。次世代を担う先生方から多くの一般演題がご投稿されることを期待いたしております。ぜひ、活発なご発表・ご討議を展開していただき、有意義な学会となりますよう、よろしくお願い申し上げます。

IMJは「未来医療」であり、「現代医療」と「伝統医療」さらに「補完代替医療」を統合することは大変なことではありますが、有意義でやりがいのあることです。ご経験ある先生方の英知と若い先生方の力が、未来を切り拓く活路であると確信いたしております。

この世のなかは政治、経済、文化で動いていますが、それらを担っているのは人であり、私たちの仕事はその人の健康や生命を守っている尊い仕事であります。自信と謙虚さを兼ねそなえた「統合医療人づくり」ひいては、IMJのStep upに少しでも貢献できれば、大会長としてこの上ないよろこびです。

最後に山口県は日本海、瀬戸内海、玄界灘の三方を海に囲まれており、新鮮な魚介類や煮物、焼物、鍋物などが、この時期もっとも美味しい季節です。山の幸も豊富で、特にお米、酒米は最高です。山口の銘酒と名湯 湯田温泉で、学会の疲れを癒していただければと思っております。また、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」も最終章です。観光は山口市、萩市や下関市の名所・旧跡にも学会前後にお訪ねください。皆様のご参加を山口県支部一同お待ちしております。

# 第19回日本統合医療学会



IMJ  
2015  
山口大会

Art & Science with Humanity  
—ヒトはBody, Mind, Spiritの存在—

特別講演『エクソソームと統合医療』

黒田 雅彦 (東京医科大学 教授)

教育講演『進化生態医学～21世紀医療の基礎理論』

長谷川 敏彦 (元日本医科大学 主任教授)

招請講演『The Art and Science of  
Holistic Nursing Care for the Critically Ill』

Wendy Chaboyer (Griffith University, Australia)

## シンポジウム

漢方の過去未来…漢方はどこに向かう？

統合医療における看護の役割—いま、本音で語ろう看護の立場から—

標準的ではない癌治療の最前線

【IMJ教育セッション】統合医療のマルチmodality評価に関するシンポジウム

災害インシデントへの統合医療活用の可能性と必要な視点

—ネクストクライシスへの備え、健康生活継続計画(HLCP)における統合医療—

健康長寿社会 実現への取り組み

緩和ケアにおける統合医療

認知症における統合医療の可能性—対応・対処をさぐる—

【臨床実践モデル】地域包括ケアシステム構築に向けた統合医療の活用術

## ワークショップ

気功とタッチケアについて

日本統合医療学会支部報告～地方からの新たな息吹～

統合医療カンファレンス～統合医療臨床のこれからのかたち～

元気・笑顔をもたらす癒しのケア・心のケアを普及しましょう！

チームアプローチによる統合医療実践環境の充実に向けた取り組み

会期

平成27年12月12日(土)・13日(日)

会場

山口市民会館

〒753-0074 山口県山口市中央二丁目5番1号

名誉大会長

仁田 新一 (日本統合医療学会 理事長)

大会長

柴田 眼治 (日本統合医療学会 山口県支部 支部長)  
(医療法人社団水生生会 柴田病院 理事長)

主催 第19回日本統合医療学会組織委員会

大会事務局 〒753-0221 山口県山口市大内矢田北5丁目11番21号 柴田病院内

連絡先 TEL:083-941-5016 FAX:083-927-5630 E-mail:imj-yamaguchi@suseikai.or.jp



IMJ  
2015  
山口大会

# 心の国造り、先人に学ぶ人間愛

## 市民公開講座

第19回日本統合医療学会

会期 平成27年12月13日(日)  
13:30～15:30

会場 山口市民会館 大ホール  
〒753-0074 山口県山口市中央二丁目5番1号

### I部

『花燃ゆの時代―吉田松陰の門下生―』

講師…一坂太郎先生(萩博物館特別学芸員)  
座長…小田悦郎先生(山口県医師会会長)

### II部

『心と魂を考える―人間性と仏性―』

講師…山田法胤先生(法相宗大本山薬師寺管主)  
座長…阿岸鉄三先生(日本統合医療学会最高顧問)

総合司会…佐藤けい氏(tysテレビ山口アナウンサー)



佐藤 けい 氏  
(tysテレビ山口 アナウンサー)

主催 第19回日本統合医療学会組織委員会  
大会事務局 〒753-0221 山口県山口市大内矢田北五丁目11番21号 柴田病院内  
連絡先 TEL:083-941-5016 FAX:083-927-5630 E-mail:imj-yamaguchi@suisaikai.or.jp

ウェブサイト <http://www.imj2015.com/>

IMJ2015山口 で検索

## 第19回日本統合医療学会 概要について

九州大学 総長 | 久保 千春 |  
第19回日本統合医療学会プログラム委員長  
(文責:大会事務局 柴田 三大)

大会テーマである"Art&Science with Humanity"ーヒトはBody, Mind, Spiritの存在ーは、「人とは何なのか?」という原点回帰と「全人的・包括的医療を行なう医療人の姿は何か?」という、われわれ医療人が備えるべき心得と実践力、すなわち「心の成長」と「スキルの修得」。これらを行ない続ける「自己研鑽」と「人財育成」の重要性を問いかけています。

本大会は「現代医療」、「伝統医療」、「補完代替医療」をバランスよく取り入れたプログラム構成を目指しました。ご講演、シンポジウム、ワークショップ、体験セッションを通じ、「根拠ある知識」と「実践力」を修得されるきっかけとなることを切に願っております。

### ～プログラム概要～

#### 【特別講演】

『エクソソームと統合医療』

演者 黒田 雅彦 (東京医科大学 教授)

座長 伊藤 壽記 (大阪大学大学院 特任教授)

#### 【教育講演】

『進化生態医学～21世紀医療の基礎理論』

演者 長谷川敏彦 (元日本医科大学 主任教授)

座長 渥美 和彦 (東京大学 名誉理事長)

#### 【招請講演】

『The Art and Science of Holistic Nursing Care for the Critically Ill』

演者 Wendy Chaboyer (Griffith University, Australia)

座長 岡 美智代 (群馬大学大学院保健学研究科 教授)

通訳 白勢 京子

#### 【理事長講演】

演者 仁田 新一 (東北大学 名誉教授)

座長 久保 千春 (九州大学 総長)

#### 【名誉理事長講演】

演者 渥美 和彦 (東京大学 名誉教授)

座長 柴田 眼治 (水生会 柴田病院 理事長)

#### 【統合医療推進モデル委員企画】

演者 鈴木 清志 (MOA東京療院 院長)

演者・座長 吉田 紀子 (済生会鹿児島県支部長, 済生会鹿児島地域福祉センター所長)

#### 【大会長講演】

演者 柴田 眼治 (水生会 柴田病院 理事長)

座長 岡田 昌義 (日本血管内治療学会 理事長, 日本統合医療学会 兵庫県支部長)

#### 【シンポジウム】

SY-01 『漢方の過去未来…漢方はどこに向かう?』

演者 中永士師明 (秋田大学大学院 教授)

山口孝二郎 (鹿児島大学大学院 診療講師)

貝沼茂三郎 (九州大学医学部 准教授)

座長 飯塚 徳男 (山口大学医学部附属病院 診療教授)

SY-02 『統合医療における看護の役割』

ーいま、本音で語ろう看護の立場からー

演者 川嶋みどり (日本赤十字看護大学 名誉教授)

相原 由花 (HPS学院 学院長)

小山 敦代 (聖泉大学 教授)

江川 幸二 (神戸市看護大学 教授)

座長 川嶋みどり (日本赤十字看護大学 名誉教授)

SY-03 『標準的ではない癌治療の最前線』

演者 長田 美穂 (大阪大学大学院)

奥野 哲治 (クリニカET 院長)

前田 華郎 (アドバンスクリニック横浜 院長)

座長 高橋 徳 (ウィスコンシン医科大学 教授)

星野恵津夫 (がん研有明病院 漢方サポート科 部長)

SY-04 【IMJ教育セッション】

『統合医療のマルチmodality評価に関するシンポジウム』

演者 伊藤 壽記 (大阪大学大学院 特任教授)

川嶋 朗 (東京有明医療大学 教授)

大川井宏明 (岩手大学工学部 教授)

木村 慧心 (日本ヨーガ療法学会 理事長)

山家 智之 (東北大学大学院 教授)

関 隆志 (東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 講師)

座長 山家 智之 (東北大学大学院 教授)

関 隆志 (東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 講師)

SY-05 『災害インシデントへの統合医療活用の可能性と必要な視点』ーネクストクライシスへの備え、

健康生活継続計画(HLCP)における統合医療ー

演者 鎌田 修広 ((株)タフ・ジャパン 代表取締役)

中山 友紀 (岩手大学工学部 特任助教)

吉椿 雅道 (CODE(海外災害援助市民センター) 事務局長)

諫山 憲司 (広島国際大学保健医療学部 准教授)

座長 諫山 憲司 (広島国際大学保健医療学部 准教授)

小野 直哉 (未来工学研究所 主任研究員)

SY-06 『健康長寿社会 実現への取り組み』

演者 石橋 英明 (愛友会 伊奈病院 整形外科部長)

柴田 輝明 (天徳会 北本整形外科 理事長)

丹 信介 (山口大学教育学部 担当教授)

比嘉 竜二 (水生会 柴田病院 リハビリテーション部 部長)

座長 武内 節夫 (クリニック・アミカル 院長)

山本光太郎 (やまもとクリニック 院長)

#### SY-07 『緩和ケアにおける統合医療』

演者 末永 和之 (すえなが在宅内科診療所 院長)

スワームーメーダサーナンダ (日本ヴェーダ  
タ協会 会長)

森 一郎 (ガラシア会 ガラシア病院 ホスピス医長)

座長 川嶋みどり (日本赤十字看護大学 名誉教授)

木村 慧心 (日本ヨーガ療法学会 理事長)

#### SY-08 『認知症における統合医療の可能性』

ー対応・対処をさぐるー

演者 落久保裕之 (裕心会 落久保外科 循環器内科クリ  
ニック 院長)

田中マキ子 (山口県立大学大学院 教授)

時信亜希子 (岡山大学大学院 技術補佐員)

座長 烏帽子田彰 (広島大学公衆衛生学 教授)

緒方 昭子 (森ノ宮医療大学 准教授)

#### SY-09 【臨床実践モデル】

『地域包括ケアシステム構築に向けた統合医療  
の活用術』

演者 江澤 和彦 (博愛会, 和香会, 優和会 理事長)

鶴岡 浩樹 (日本社会事業大学大学院 教授)

林 紀行 (大阪大学大学院 助教)

神尾 隆文 (リヴ・レーダ株式会社 神尾鍼灸整  
骨院 代表取締役)

座長 吉田 紀子 (済生会鹿児島県支部長, 済生会鹿児  
島地域福祉センター所長)

山本 竜隆 (朝霧高原診療所 院長)

#### 【ワークショップ】

##### WS-01 『気功とタッチケアについて』

演者 村川 治彦 (関西大学人間健康学部 教授)

中川 玲子 (NPO法人タッチケア支援センター 代表)

座長 濱野 清志 (京都文教大学臨床心理学部 教授)

##### WS-02 『日本統合医療学会支部報告』

ー地方からの新たな息吹ー

演者 山家 智之 (東北支部長)

鈴木 洋通 (埼玉県支部長)

福沢 嘉孝 (愛知県支部長)

赤木 純児 (熊本県支部長)

大泉 宏晃 (山梨・静岡県支部事務局長)

岡村 仁 (広島県支部長)

座長 古賀 伸彦 (九州支部長)

板東 浩 (四国支部事務局長)

##### WS-03 『統合医療カンファレンス』

ー統合医療臨床のこれからのかたちー

演者 小池 弘人 (小池統合医療クリニック 院長)

串田 剛 (光クリニック 院長)

福岡 博史 (明徳会 福岡歯科 理事長)

加藤 祥子 (日本ヨーガ療法学会 認定ヨーガ療法士)

座長 小池 弘人 (小池統合医療クリニック 院長)

福岡 博史 (明徳会 福岡歯科 理事長)

#### WS-04, WS-05 『元気・笑顔をもたらす癒しのケア・

心のケアを普及しましょう！チームアプロー  
チによる統合医療実践環境の充実に向けた取  
り組み』

#### I 部

実演 ハマナス・音楽&看護療法研究会

#### II 部

演者 大瀧 真美 (医療法人ライブフォレスト桑園メン  
タルクリニック)

福原 千秋 (博光会御幸病院 副看護部長)

下出理恵子 (しもでメンタルクリニックデイケア  
センター音楽療法士, 日本音楽療法学会認定音楽  
療法士)

座長 猪股千代子 (札幌市大看護学部 教授)

岡田 朱民 (京都学園大学健康医療学部 講師)

#### 【日本統合医療学会女性の会】

演者 Victoria Maizes (アリゾナ統合医療センター専  
務理事)

座長 板村 論子 (帯津三敬会 帯津三敬塾クリニック  
理事長)

通訳 白勢 京子

#### 【市民公開講座】

##### 心の国造りー先人に学ぶ人間愛ー

#### I 部 花燃ゆの時代ー吉田松陰の門下生ー

演者 一坂 太郎 (萩博物館 特別学芸員)

座長 小田 悦郎 (山口県医師会 会長)

#### II 部 心と魂を考えるー人間性と仏性ー

演者 山田 法胤 (法相宗大本山薬師寺 管主)

座長 阿岸 鉄三 (東京女子医科大学 名誉教授)

総合司会 佐藤 けい (tysテレビ山口 アナウンサー)

(敬称略)

#### 【体験セッション】

IMJ会員やIMJ山口県支部の各部会長・有志の方々による体験セッションを予定いたしております。ぜひ、体験セッションへも足を運んでいただければと思います！

～体験セッション(セラピー内容)～

笑いヨガ, ヨーガ, 座禅, アロマセラピー, 椿オイルセラピー, フラワーセラピー, ミュージックセラピー, 気功, 色紐調整法など

(※プログラム内容は、急きょ変更になる場合がございます。)

#### 【大会事務局からのお知らせ】

今年の全国大会は、本州最西端の地である山口県での開催となりました。地方での開催ですので、ご不便な点もあるかと存じますが、より多くの先生方にお越しいただくため、IMJ山口県支部一同、鋭意準備を進めているところでございます。

準備活動の中でもWebによる広報活動〈『統合医療を語ろう』リレーコラム、豪華景品が当たる！『長州必見クイズ』、山口の魅力紹介（温泉・観光・グルメetc）、facebookページなど〉に力を入れております。『百聞は一見にしかず』ということわざもありますが、『百聞は一見の価値あり』という言葉もございます。大会前にHP (<http://www.imj2015.com>) をアクセスいただくことで、より充実した大会になることと存じます。奮ってご応募、ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。皆様のご来山を心よりお待ちしております。

寄稿

## ナラタケに関する最近の知見

| 静 貴生 |  
大阪医科大学



地球上には、既知のものだけで9万7千種の菌類が存在し、その総数は50万から990万種にのぼると推定されている。菌類は様々な物質を含み、臨床における活用に関しても大きな可能性を秘めている。

中国で注目を集めている菌類であるナラタケについて、最近の知見を述べる。

### ナラタケとは

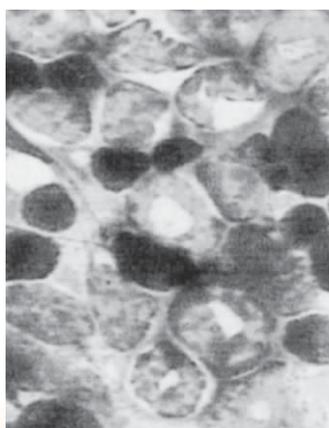
ナラタケ（学名：*Armillaria mellea subsp. Nipponica*、中国名：天麻密環菌）は、ハラタケ目キシメジ科ナラタケ属に分類され<sup>1)</sup>、主に植物寄生菌として生活しているキノコである。ナラタケは優れた食菌として知られ、日本でも古くから食されている。

中国では、ナラタケに関する基礎研究や臨床研究が盛んに行なわれており、ナラタケの研究によって、抗けいれん作用、免疫調節作用および抗菌作用を備えた新たな新薬を開発できる可能性も指摘されている<sup>2)</sup>。

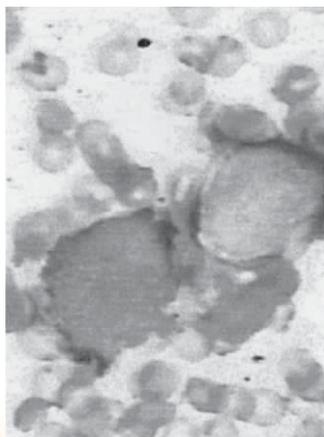
以下、近年の動物実験により明らかになったナラタケの作用を挙げ、統合医学分野における活用に関して考察を加える。

### ナラタケに関する動物実験の結果

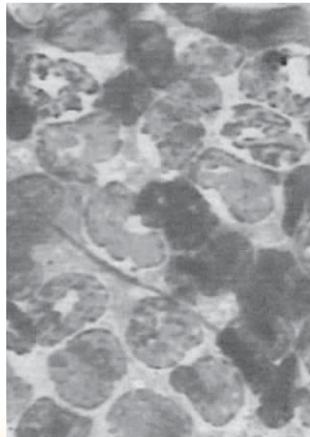
- ①ナラタケ菌糸体液は、マウスの睡眠時間を延長する  
中国医学科学院薬物の研究所薬理室による研究により、マウスに培養ナラタケ菌糸体を注射することによって、マウスの睡眠時間が延長することが明らかになった。ナラタケ菌糸体は、天麻と同じ閾値用量で、ペントバルビタールナトリウムとの相乗効果がある<sup>3)</sup>。
- ②培養ナラタケ菌糸体エキスは、マウスの痙攣を抑制する  
培養ナラタケ菌糸体をマウスに静脈内投与したところ、ペンチレンテトラゾール投与による誘発性痙攣を抑制することが確認された<sup>3)</sup>。
- ③ナラタケ菌糸体は、ニコチンによるマウスの死亡例を減少させる<sup>3)</sup>
- ④ナラタケ菌糸体は、犬の脳血流量と冠状動脈血流量を増加させる<sup>3)</sup>
- ⑤マウスへの経口投与により、ナラタケ菌糸体末に毒性がないことが確認された<sup>3)</sup>
- ⑥ナラタケ菌糸体から抽出されたエキスは、シクロホスファミドによるマウス骨髄細胞傷害に対する保護作用を有する（図1～4）<sup>4)</sup>
- ⑦ナラタケに含有される多糖類は、抗眩暈症作用を有する  
機械的な回転の負荷により眩暈症を誘発したマウスを対象とし、迷路通過試験と跳躍試験を行い、電気刺激に対する回避行動に要する時間と食物摂取量を観察した。結果、回転措置によるマウスの眩暈症に対し、生薬天麻とナラタケの両者は、ジフェニドール塩酸塩に類似した抗眩暈効果をもつことが確認された<sup>5)</sup>。
- ⑧ナラタケに含有される多糖類は、免疫を増強する  
ナラタケに含有される多糖類の経口投与によって、マウスの貪食単球 - マクロファージ細胞性食作用が高まり、遅延型過敏症が増強され、溶血素の産生が促進される。また、免疫機能を増加させる作用を持つことが示唆されている。



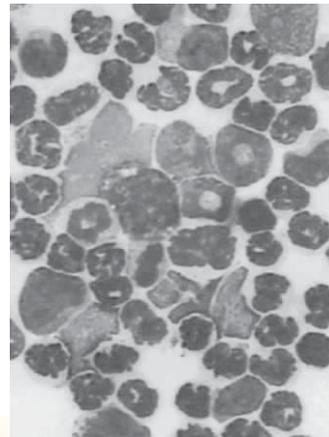
生理塩水 骨髄像  
図1



シクロホスファミド損傷 骨髄像  
図2



ナラタケ多糖低用量組 骨髄像  
図3



ナラタケ多糖高用量組 骨髄像  
図4

⑨ナラタケは、抗菌作用と抗炎症作用を有する

ナラタケ子実体のエタノール抽出物が抗菌活性を持つことを指摘する報告がある<sup>7)</sup>。また、ナラタケ菌糸体に関して、腸菌および緑膿菌に対する抗菌活性を評価した研究も報告されている<sup>8)</sup>。また、Liu TP<sup>9)</sup>らは、ナラタケは、炎症性疾患に関与する生物学的応答を修飾剤する作用を有し、薬剤となり得る可能性を持つことを指摘している。

⑩ナラタケは、抗酸化作用、抗高血糖作用を有する

Zavastin DE<sup>10)</sup>らは、ナラタケ子実体のエタノール抽出物を使用し、in vitroにおける酸化防止と血糖降下効果を研究した。結果、ナラタケ抽出物は、抗酸化作用および抗高血糖の作用を持つ可能性が示唆された。また、Zhang S<sup>11)</sup>らは、ナラタケの子実体と菌糸体から抽出された多糖類を研究し、ナラタケ多糖類が抗酸化作用を有することを明らかにした。

⑪ナラタケは脳保護作用を有する

日本において、渡辺修治<sup>12)</sup>らは、マウスにおける虚血の程度を測定し、ナラタケ菌糸体から単離したAMG-1が脳に対する保護作用を有することを確認した。

以上のように、近年の研究により、ナラタケは様々な作用を有していることが明らかになりつつある。

現在、中国において、ナラタケ菌糸体の鎮静作用が注目されており、OTCの経口薬として、痙攣、めまい、頭痛、神経衰弱、不眠症、しびれなどの治療に活用されている。また、ナラタケが認知症の治療薬となる可能性にも、注目が集まっている。

ナラタケのヒトに対する作用も、徐々に明らかになりつつある。上海静安区中心医院における研究<sup>13)</sup>により、ナラタケ菌糸体が心脳血管病変に対する治療効果を有することが明らかになった。さらに、ナラタケ菌糸体の長期服用により、視力障害、眼の炎症、夜盲症、乾燥肌、粘膜分泌失調を予防できることが判明している。

日本では、渡辺修治らが、1980年代後半にナラタケの生理活性物質の研究を精力的に行なった。彼らの研究により、ナラタケの興味深い生理活性が多く明らかになった。渡辺は、ナラタケは化合物の宝庫であると指摘している。

今後のデータの集積により、ナラタケの統合医療分野における貢献が期待されている。

## 文献

- 1) 太田祐子：ナラタケ属菌の分類・系統・生態およびならたけ病の防除。樹木医学研究。第10巻1号(2006)：3。
- 2) African Journal of Biotechnology. 2009 December; Vol. 8 (25): 7383-7390.
- 3) 中华医学杂志.1977(8): 470-472.
- 4) China Journal of Chinese Materrria Medica. 2005 Feb; Vol. 30. Issue. 4: 283-286.

5) Chinese Journal of Information on TCM. 2006 Aug; Vol.13 No.8: 29-36.

6) Journal of Biology, 2001; 18(4): 16-18.

7) Proceeding of the 6th International Conference on Mushroom Biology and Mushroom Products. 2008 Edited by J.I. LelleyGAMU GmbH, Institut für Pilzforschung, Krefeld, Germany

8) International Journal of Microbial Resource Technology.2014 Dec; Vol.2, No. 3: 29-33.

9) Int J Med Mushrooms. 2015;17(2): 161-168.

10) Rev Med Chir Soc Med Nat Iasi. 2015 Jan-Mar; 119(1): 273-80.

11) Molecules. 2015 Mar 31;20(4): 5680-5697.

12) Planta Med. 1990 Feb;56(1): 48-52.

13) Guangxi Sciences, 2003 November.Vol.110 No.14; (4): 315-316.

寄稿

**20年目の看護音楽療法  
～ともに歩み、  
生きる楽しみ紡ぐ**

平松 則子 |  
看護音楽療法研究会/  
健和会臨床看護学研究所



当初はパーキンソン病で在宅療養を送る方々のQOL向上に貢献できるのではないかと取り組んだ看護音楽療法(野田燎氏の音楽運動療法に学び看護に発展させ命名)。本療法は、看護師と演奏家、障害児教育者らと専門性を発揮して実践する。看護ケア・音楽・体ほぐし・トランポリン運動・遊び等をメニューとした個人セッションを月2回定期的に行ない、対象者の心身が豊かになるよう働きかける。7年ほど前から小児重度障害者が加わり、今では6名が継続されている。始めてから20年目に突入であるので、何年にもわたって通い続けられたパーキンソン病の方との絆が深まり、穏やかに一人二人と卒業されていった。とともに療法にかかわるスタッフも少しずつ交代していった。このくらい長く継続しても公共的に行なうための苦難がある。“看護”がつかない“音楽療法”はすでに医療介護福祉の分野に浸透しつつあるが、こちらははまだ認証されない状況であり、我々もあきらめず前進するのみである。

さて、対象者を受け入れる際にある程度効果が期待されることが条件になるであろうが、本療法におけるパーキンソン病患者への効果は、一時的(数日ないしは一週間は調子よいというレベル)とはいえ、不都合な身体の動き等の症状軽減を視覚的にとらえられ、主観的評価(QOL指標含む)により前向きに生きたいという意欲の

向上を引き出すことが確かめられた。最終的には、その方々の生きてきた時間軸で捉えられた。

小児重度障害者の場合はどうであろうか。当初かかわる上で、困難であったのは小児期・思春期であり、重い障害によりコミュニケーションや表情が読み取れないことであった。当事者も同じ思いであろうと同行する家族に協力を得て、まずは信頼関係を結び相互交流に努めた。我々の性分として何かをやるときにはよい成果を求めて焦ることが多い。何をめざすのか、スタッフ間の意見のくい違いなど模索の日々であった。結局、今の療法の時間に存分に楽しんでもらうことが大切なのであり、対象者それぞれの成長発達に目を向けて小さな変化を追って行こうという基本方針で取り組んでいる。

月2回の実施であるから、当初参加の方は120回をすでに超えた。対象者・家族の努力が大きく、特別支援学校を卒業し、立派な青年・女性になった。毎回、笑顔で迎えられたこと自体が、参加者の生活が維持されていることを物語る。それだけではない、実践（時間）の積み重ねからやはり変化はあった。

たとえば、幼少期から寝たきりで気分がよい時は笑顔をみせる年長のA子さん。参加当初は、刺激の多いセッション中であっても眠ってしまう回数が多かった。頸部の保持力が高まり、今では座位保持もしっかりと眠ることがなく、Aさんの意思を強く感じられるようになっ

た。お母さんは「この1~2年がとくにめざましい。ここに来ることが本当に楽しいんだと思います」と6年目にしての言葉である。もう一例、当初は自閉的で孔のある物にこだわり、車いすに座りきりだった年少のB子さん。とくに起立・歩行練習に励み、4年目にして、初めて補助歩行器を使いこなして来所した。足腰がしっかりとし、行きたいところへ自発的に向かうようになった。周囲を見渡すことが多くなり、楽しそうなものを見つけては歓喜の声をあげている。このように他の参加者の諸変化も含めて確実にとらえることができるようになってきた。

裏返せば、かかわるスタッフが参加者の気持ちをさまざまな表現からサインととらえ読み取ることができていることの表れでもある。毎回付き添う家族は「ここでのセッションは日常生活では体験できない内容であり、この子がこんなこともできるんだと、発見できる場所」であり、家でも取り組めるものがあるのでやってみたいと話される。こうしたことが、おそらく参加者の目に見える変化へとつながっていると考えている。

一方で研究助成を得て継続させる努力も必要であり、これからも、本療法を看護的補完療法として位置づけ、参加希望される対象者をできる限り受け入れ、その人の人生が少しでも豊かになるような実践を積み上げていきたい。

## 事務局だより

### 【会議開催報告】

- 2015年2月10日 平成26年度理事長諮問委員会(東京駅八重洲北口ルノール会議室)
- 2015年3月1日 平成26年度日本統合医療学会通常理事会(東京大学医学部教育研究棟第5セミナー室)
- 2015年4月13日 平成27年度理事長諮問委員会(事務局5階会議室)
- 2015年5月27日 平成27年度第2回理事長諮問委員会(事務局5階会議室)
- 2015年6月6日 平成27年度定時社員総会(東京大学医学部中央館333室)
- 2015年7月5日 統合医療モデル委員会
- 2015年7月7日 平成27年度第3回理事長諮問委員会(事務局5階会議室)
- 2015年8月3日 平成27年度第4回理事長諮問委員会(事務局5階会議室)
- 2015年8月21日 平成27年度日本統合医療学会企画運営委員会及び臨時理事会(東京駅八重洲北口ルノール会議室)
- 2015年8月21日 エビデンス創生委員会
- 2015年9月14日 平成27年度第5回理事長諮問委員会(事務局5階会議室)

### 【学会事業報告】

- 2015年2月1日 平成26年度IMJウインターセミナー(東京駅ダイ

ビル会議室)参加者約30名

- 2015年3月13日 平成26年度賛助会員交流会(東京市ヶ谷ホテルアルカディア)参加賛助会員14社
- 2015年3月14日、15日 静岡・山梨支部設立総会
- 2015年5月16日 第1回日本統合医療学会九州ブロック大会(熊本)
- 2015年6月21日 広島支部設立総会
- 2015年7月18日、19日 第3回日本統合医療学会サマーセミナーin郡山(福島県磐梯熱海温泉)参加者48名(\*第4回日本統合医療学会サマーセミナーin郡山(福島県磐梯熱海)平成28年7月16日、17日開催予定)
- 2015年7月25日、26日 平成27年度第1回認定資格セミナー(アットビジネスセンター池袋本館5階)

### 【今後の学会事業予定】

- 2015年10月25日 統合医療モデル委員会(東京駅八重洲北口ルノール会議室)
- 2015年10月31日 11月1日 平成27年度第2回認定資格セミナー(東京大学医学部教育研究棟13階セミナー室)
- 2015年12月11日 平成27年度第1回通常理事会(山口)
- 2015年12月12日、13日 第19回日本統合医療学会学術大会(山口大会)
- 2015年12月13日 平成27年度資格認定試験(山口)

(文責:事務局長 河野 明正)

## 編集後記

●専門性の異なる多職種の集まる学会のよさは、1つのテーマに対して多面的なアプローチができること。その利点をもっと活かすためには、具体的な事象を共通の概念のもとで語り合えるように、統合医療関連用語の統一を図ることはできないでしょうか●猛暑続きの夜から一転して都心でも秋を告げる虫の音。3か月後、もしかしたら木枯らしが吹いているかも知れませんが、研究の成果と熱い交流を楽しみに山口でお会いしましょう(川嶋みどり)